

# 悠久の時を超えて…

一般社団法人 日本銅センター 副会長  
株式会社フジクラ 代表取締役社長



伊藤 雅彦

弊社は今年で創業133年目を迎えます。諸先輩方が歩んできた道は決して楽な道ではなく、今現在本社があるここ深川（東京都江東区木場）の地に1923年1月に深川工場を築いて8ヶ月後に関東大震災で全焼、再建するも1945年には東京大空襲で再び全焼…。それでも「地道に、しぶとく、ひたむきに」歩み続け、今日のフジクラへと成長しました。しかしながら、弊社はこの二度の火災で工場だけでなく弊社の歴史に関わるものも焼失してしまい、創業者である藤倉善八の写真も直筆の書も社内にはありませんでした。ところが、京都にある日本最古の電線メーカーである津田電線株式会社にて藤倉善八直筆の46枚の葉書が保管されていることが2016年に判りました。それら1894〜1897年の葉書を解読したところ実にいろいろなことが判りました。判明したことの一つに当時の銅線購入ルートがありました。福井県の面谷（おもだに）鉱山から京都の津田電線にて銅線加工し弊社で電線被覆していたということです。

私が銅を購入していたとは、誠に勝手ながら、藤倉善八と私が悠久の時を超えつながったことに感動しました。

面谷銅山は、現在の福井県大野市の九頭竜湖の近くに位置し、日本有数の大規模鉱山として名をはせた時代もありました。寛文9（1668）年に発見され、明治21（1888）年に三菱合資会社（現三菱マテリアル（株））が経営を継承しました。（現三菱マテリアル（株））が経営を継承しました。明治22〜大正6（1889〜1917）年頃の全盛時代には約3000人が面谷に暮らし年間約3万3千トンの銅を中心とした鉱物を産出していました（当時の日本の銅産出量は10万8千トン）。しかし、第二次世界大戦後の銅需要の減少と安い輸入銅に押されて大正11（1922）年に閉山となりました。

100年以上の悠久の時を超え、創業者藤倉善八と私をつないでくれた面谷銅山の跡地にいつか訪れたいと思います。もしかしたら創業者も訪れたかもしれないその地に。



往時の福井県面谷鉱山

## 銅

### 目次

2	カパーロマン 悠久の時を超えて… 伊藤雅彦
3	銅の歴史物語 思考錯誤を重ねた50年ぶりの本堂大改修 日光山輪王寺
4	ルポルタージュ 愛媛県内子町で日欧の伝統文化が融合 銅箔和紙オンリーワンの美
6	ユーズインタビュー 世界シェア80%の秘密は 独自の銅鑄造技術にあった
8	リレー随想 中国、現在の銅の金属工業 前田宏智
10	カパーワールド 伝統と革新の鋳起銅器 200年を経て磨かれてきた美意識
12	カパーワールド 100周年を迎えた直島製錬所が目指すのは Eスクラップ処理で断トツの世界一
14	銅センターニュース トピックス